令和５年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担 研究報告書

ホルモン受容機構異常に関する調査研究

研究分担者　氏名：石井角保　　所属：新潟県立看護大学

研究概要：甲状腺ホルモン不応症は甲状腺ホルモンに対する標的臓器の反応性が減弱している症候群であるが、不適切な治療が行われることがあり、正確な診断、治療のための指針の作成が必要である。本年度は、治療指針策定が終了し、これまでに策定した診断基準、重症度分類、遺伝子診断の手引きと併せて書籍として公表し、研究成果の社会還元を行った。

A．研究目的

甲状腺ホルモン不応症は、甲状腺ホルモンに対する標的臓器の反応性が減弱している症候群である。本疾患の患者では甲状腺ホルモン高値にもかかわらずTSHが抑制されない不適切TSH分泌症候群を呈するため、バセドウ病などと間違えられ不適切な治療が行われることがある。本研究では、専門家以外の医師でも正しく診療できるようにするため、適切な診断及び治療指針の策定を行う。

B. 研究方法

日本内分泌学会及び日本甲状腺学会の会員から診療指針作成委員会（委員長石井角保）を作り、文献に基づいて、各種ガイドラインの作成を行なった。診療に関する事項については、Minds・GRADEが定める手法に基づいて作成した。

（倫理面への配慮）

現段階では既に公表されている文献に基づく研究のため、倫理審査が必要となる研究内容は含まれないが、研究倫理教育を受講し、利益相反の管理を適切に行なっている。

C. 研究結果

本年度は、甲状腺ホルモン不応症の診療ガイドラインが完成し、これまでに作成・公表済みの診断基準、重症度分類、遺伝子診断の手引きと併せて、書籍として出版を行なった。

D. 考察

専門家以外の医師が甲状腺ホルモン不応症を正しく診療できるようにするためには、適切な診断及び治療指針の制定が不可欠である。今回、診断基準、重症度分類、遺伝子診断の手引きに加えて、診療ガイドラインが完成し、書籍として公表したことで、研究成果を社会に還元できると考えられる。

E. 結論

診断基準、重症度分類、遺伝子診断の手引き、診療ガイドラインの策定を行い、書籍として公表し研究成果の社会還元を行った。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G．研究発表

1.　論文発表

石井角保：甲状腺ホルモン不応症：診断と治療、日本内科学会雑誌113巻4号・印刷中・2024年.

2.　学会発表

1. Ninomiya A, Ishii S, et al. : The indispensable role of thyroid hormone during development in the maintenance of cerebellar function in adulthood、第66回日本甲状腺学会学術集会　国際分子甲状腺シンポジウム、金沢、2023年12月7日-9日、第66回日本甲状腺学会学術集会抄録集・51頁・2023年.
2. 石井角保、山田正信：「甲状腺ホルモン不応症の手引き」の刊行、第66回 日本甲状腺学会学術集会、金沢、2023年12月7日-9日、第66回日本甲状腺学会学術集会抄録集・75頁・2023年.
3. 山田正信、石井角保ら：甲状腺ホルモン不応症と TSH 産生 PitNET、第 33 回臨床内分泌代謝Update、横浜、2023年11月3日-4日、日本内分泌学会雑誌99巻2号・536頁・2023年.
4. 二ノ宮彩音、石井角保ら：変異甲状腺ホルモン受容体を発現させたマウスプルキンエ細胞では、長期抑圧誘発刺激は長期増強を惹起する、第96回 日本内分泌学会学術集会、名古屋、2023年6月1日-3日、日本内分泌学会雑誌99巻1号・286頁・2023年.

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3.その他

該当なし